
CONTENTS

- 卷頭言
 - 日本現代中国学会 2010年度関西部会大会のご案内
 - 訃報
 - 日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌
 - 事務報告
 - 地域部会活動報告
 - 2010年度学会スケジュール（予告）
-

【卷頭言】

転換する中国と中国研究の挑戦

楊麗君（シンガポール国立大学）

中国は現代社会が未だ経験したことのない転換期の真ただ中にある。工業化、都市化、そしてネットワーク化、政治的多元化（民主化）が同時に展開している中国は、中国研究に取り組む研究者に対して格好の研究素材を提供しているといえるかもしれない。しかし、中国が直面している問題群の複雑性と多様性、そして、それらがいずれも未知の問題であることは、研究者にとってまるで中国から未曾有の挑戦を突き付けているかのようでもある。どの様に中国を理解したらよいのか。どの様な方法論を用いて中国でおきている社会現象を分析したらよいのか。マクロな問題やミクロな問題を如何に整理して、中国を分析したらよいのか。欧米の学問的経験から抽出した概念や理念を用いて転換期の中国を分析することは適切なのだろうか。こうした一連の疑問は、単に筆者個人の疑問にとどまるものではないはずだ。中国研究にとりくむ学界全体が、ともに直面している疑問であるといえよう。こうした疑問が提起される原因の一つは、研究の対象の問題である。そしていま一つの原因は研究の方法と関連していよう。

中国の急速な経済発展は研究対象の流動性と変容性を大いに高めている。比較的発展し、相対的に成熟した社会と比較して、中国が直面している問題群の実態はより複雑であり把握し難いものである。今日、社会の不安定化をもたらす課題の主要な要因が、新しい政策の執行や新たな関連する状況の変化によって、明日にはそれほど重要な要因ではなくなるかもしれないし、さらには問題そのものが存在しなくなるかもしれない。しかし新しい政策や環境の変化は新しい問題群を生み出すかもしれない。例えば農民による抗議活動がそうである。数年前まで農民の抗議活動の核心的課題は税をめぐるものであった。しかし農業税の取り消しにともない抗税運動はもはや存在しなくなった。かわって土地の強制的な収用への反発が主要な抗議活動となっている。こうした研究対象の変化は、研究者に対して、一つの問題を深く研究するための時間をあたえずに、新しい現象に対する研究の必要を求めることになっている。また地域間格差の拡大もまた研究の複雑性を飛躍的に高めている。研究者にとって、地方の個別の事例研究をつうじて普遍的な理論を抽出するこ

とは難しくなりつつある。

中国をめぐる問題群の複雑性と多面性、研究対象の急速な変化、そして地域間の発達の不均衡性は、中国研究に対して厳しい挑戦状を突き付けている。しかし、このことが中国研究の新しい手法を生み出すことを困難にしている要因ではない。主要な原因は研究方法にある。筆者が考えるに、中国をめぐる問題を研究に関して、以下の二つの問題の関係を如何に処理するのが重要になっている。

第一にはマクロとミクロの関係である。日本の中国研究であっても西側の中国研究であっても、今日の中国研究は事例研究をともに重視している。そうしたなかで日本の中国研究は史料を特に重視する。歴史を掘り下げ、事実関係を詳細に積み上げてゆき、問題の核心を見出してゆくことに秀でている。こうした伝統的な考証学の影響を強く受けた研究手法は、ミクロな領域から中国に対する理解を深めることに優れているといえよう。しかしマクロの視点から事例を理解することは、必ずしも日本の中国研究が得意としているわけではない。一方で西側の中国研究は理論的モデルの構築に力を尽くす。もちろん事例研究をつうじて構築した理論的研究の枠組みを展開することを要求している。中国国内の中国研究は、一般的には西側の、とくに米国の研究手法を学習し、それを用いることが多い。前述したように、地域格差が大きい中国を理解するために事例研究は必要であり、ミクロな視点から中国を理解しようとする試みは非常に重要でありかつ不可欠なものである。しかしながら、中国の地域格差が大きいからといってミクロな視点からの研究だけを重視するのであれば、我々は事例研究だけによって中国を理解することの妥当性に疑問を抱かざるを得ない。

研究者は常に、事例研究はどの程度中国を代表しているのかという問いに直面している。中国研究において事例研究という手法は中国を理解するためにどの程度の手助けとなるのだろうか。時代の要請にそうした事例研究は応じることができるのだろうか。ミクロな事例の分析に血道を上げることによって、木を見て森を見ないことになりはしないだろうか。

研究者はいくつかのことに気付いてきた。事例研究が増えれば増えるに従って、中国を全体的に理解することは容易ではなくなりつつある。極端な言い方をすれば、事例研究が増加すればするほど新しい理解が生まれるわけではない。こうした研究手法をめぐる問題をどのように克服したらよいだろうか。これは今日の中国研究者が直面している共通の問題であるといえよう。筆者は、問題をマクロの視点から把握し、大きな歴史的な文脈の中から問題の本質を見抜く試みを大胆におこなうという、マクロ研究のなかからマクロ的な観点から研究をおこなうことは、疑いもなく検討すべき研究手法であると考えている。

第二には、西側の理論と中国問題との関係である。中国研究の方法論の点において、「西側中心主義」や「中国中心論」といった学説がある。しかし事実上中国研究、とくに第二次世界大戦後の中国研究は、終始一貫して「西側中心主義」が中心にあった。研究者は終始一貫して西側の概念や理論を引用、或いはあてはめることによって中国の理解を試みてきた。中国研究における言語もまた西側の学術理論を持ち込んだものであった。西側の学術理論は西側の社会経験のなから抽出されたものである。西側の社会経験というのは、ある意味において一部の地方の経験にすぎず、地方的な経験から導き出された概念や理論もまた地方的に限定されたものにすぎない。全世界的な規模で適応される一般真理というわけにはいかない。西側の学者が習慣的に使い、熟知している概念や理論を以て中国を理解することによって西側の学術界は社会科学の領域分野における研究上の先端性が堅持され、

また中国研究における主導権を握ってきたのである。

中国や日本、さらにはそのほかのアジア諸国の中国研究は、長期にわたって「主流」の中国研究を追随してきた。その結果として、中国の経験から抽出された発展や理論的分析枠組みを構築する意識に乏しかった。まさに前述したとおり、中国は現在、誰もが経験したことのない転換期に直面している。中国は西側とは異なる発展の軌跡と文化的背景を有し、西側の既存の概念や理論だけを以て中国を説明することは十分ではない。例えば、民主制度をめぐる研究について検討してみよう。西側の民主制度は西側の歴史的展開のなかで誕生し、発展してきた。中国も民主を必要としている。しかし中国において民主を求める声は、中国自身の歴史的発展のなかから生じたものであり、西側のモデルを求めているわけではない。西側の民主制度の概念を用いて、中国の民主化の展開を理解しようとするのは、事態を適切にとらえることはできないはずだ。中国研究の分野において、西側の方法論は学ぶべき対象である。しかし、注意しなければならないのは、我々が西側の学術界に学ぶべきものは研究の方法論であって、研究上の概念や理論にあるわけではない。中国研究をめぐる理論は中国問題を研究する基礎の上に発展するのである。この点は西側の中国問題の研究者だけでなく、中国や日本の中国研究者にもいずれにも当てはまるといえよう。

転換期の中国は中国研究の方法論をめぐる問題に直面している。方法論を再構築するためには、単なる引用主義的であってはならない。西側社会の科学的概念や理論が作り出されたのは、西側社会の現象の研究をつうじて抽出されたのである。今日の中国問題の研究モデルの再構築にあたって、科学的な方法に回帰するべきであろう。科学的方法を以て中国の現実を観察し、観察の基礎の上に社会現象を概念化し、その概念を基礎にして理論モデルを構築する。これは西側の社会科学の発展の軌跡であり、中国においても同じことは当てはまるはずだ。

(原題は、「中国的転型对中国研究的挑戦」である。)

(翻訳：加茂具樹(慶應義塾大学))

【日本現代中国学会 2010 年度関西部会大会のご案内】

5 回目の開催となります 2010 年度関西部会大会のプログラムをお届けいたします。周囲の方々にもお声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

○日本現代中国学会 2010 年度関西部会大会〈プログラム〉

日時：2009 年 6 月 5 日(土) 9:30～17:50 (受付は午前 9 時より開始)

会場：摂南大学大阪センター (学校法人常翔学園大阪センター)

(大阪市北区梅田 3-4-5 毎日インテシオ 3F)

(アクセス <http://www.josho.ac.jp/osakacenter/index.html>)

(地図 <http://www.josho.ac.jp/osakacenter/img/map001.pdf>)

参加費：無料 (懇親会費用は別途)

【自由論題】9:30～13:30 (*報告 30 分、コメント・討論 15 分)

【政治・法律分科会】

司会：倉田徹(金沢大学)

・第一報告（9:30～10:15）：渡辺直土（大阪外国語大学大学院修了）
「現代中国政治体制における正統性原理の再構成」

・第二報告（10:15～11:00）：王晨（大阪市立大学）
「中国不法行為責任法の現代化」

司会：鄭雅英（立命館大学）

・第三報告（11:00～11:45）：大西広（京都大学）
「ラオス境内中国ボーダーの中国人移民問題—国境の外の少数民族問題—」

昼食休憩（11:45～12:45）

・第四報告（12:45～13:30）：加治宏基（愛知大学 ICCS 研究員）
「国連開発ディスコースの『本土化』をめぐる中国の政策過程」

【経済分科会】

司会：李捷生（大阪市立大学）

・第一報告（9:30～10:15）：劉洋（京都大学院生）
「中国都市部における二重労働市場の計量モデルとシミュレーション」

・第二報告（10:15～11:00）：黄声遠（大阪経済大学院生）
「中国の年金保険制度改革とその方向性」

司会：山本恒人（大阪経済大学）

・第三報告（11:00～11:45）：畢麗傑（立命館大学院生）
「中国都市部における高齢者介護保険制度（SLTCI）の構築に向けて—日本・韓国・ドイツとの国際比較を中心に—」

昼食休憩（11:45～13:30）

【社会・歴史分科会】

司会：日野みどり（金城学院大学）

・第一報告（9:30～10:15）：松村嘉久（阪南大学）
「中国北京における出稼ぎ労働者・住宅困窮者・ホームレス」

・第二報告（10:15～11:00）：根岸智代（大阪大学院生）
「日中戦争直前の中国の対日言論と第6回太平洋国際問題調査会会議」

司会：堀口正（宮崎公立大学）

・第三報告（11:00～11:45）：王燕（龍谷大学院生）
「中国における環境保護 NGO 組織の現状と課題」

昼食休憩（11:45～12:45）

・第四報告（12:45～13:30）：肖俏（滋賀県立大学院生）
「移行期の中国におけるボランティア活動に関する考察」

【文学・思想分科会】

司会：濱田麻矢（神戸大学）

・第一報告（9:30～10:15）：鎌田純子（関西大学非常勤講師）
「原作と英訳の間の創作—陳紀滢『荻村伝』と張愛玲『Fool in the reeds』の比較を通して—」

・第二報告（10:15～11:00）：城山拓也（大阪市立大学院生）

「郭建英と『婦人画報』」

司会：福家道信（近畿大学）

- ・ 第三報告（11:00～11:45）：楊靈琳（大阪大学院生）

「樂園の喪失—1940年代沈從文研究のための予備的考察—」

昼食休憩（11:45～12:45）

- ・ 第四報告（12:45～13:30）：松尾むつ子（関西大学院生）

「成都時代の巴金」

[共通論題] 13:40～17:50

「中国社会の現段階」

座長：辻美代（流通科学大学）

13:40～13:45 趣旨説明 辻美代（流通科学大学）

13:45～14:25 【政治領域】松本充豊（天理大学）

14:25～15:05 【経済領域】梶谷懐（神戸大学）

15:05～15:20 休憩

15:20～16:00 【歴史領域】田中仁（大阪大学）

16:00～16:40 【文学領域】和田知久（中部大学）

16:40～17:00 討論 宇野木洋（立命館大学）

17:00～17:50 全体討論

[懇親会] 18:00～20:00

摂南大学大阪センター内レストラン「翔」

一般 5000 円 学生（院生）3000 円

*参加希望者は必ず事前にご連絡をお願いします。

●関西理事会のご案内

昼食休憩中に関西理事会を開催いたします。

●参加者の皆さんへ

1. 当日の昼食は周辺のレストランをご利用になるか、お早めに周辺のコンビニなどで弁当を購入するようお願いいたします。

2. 出張依頼状は公印を押す必要があるため、全国事務局で発行します。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

Tel 03-5307-1175、 Fax 03-5307-1196

E-mail: genchu@univcoop.or.jp

3. 関西部会大会では、学会費の取り扱いはいたしません。学会費は本部事務局に納入ください。本部事務局振替口座番号は、学会 HP に記載されています。

4. 会場にはコピー機が設置されていません。報告者の方は、配布資料をあらかじめ印刷してご持参下さい。

日本現代中国学会関西部会事務局

〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-1

流通科学大学商学部・辻美代研究室

連絡先：事務局総務・日野みどり

hino@kinjo-u.ac.jp

〒463-8521 名古屋市守山区大森 2-1723 金城学院大学現代文化学部

ファックス：052-799-2196

【共通論題シンポジウム：問題提起】

「中国社会の現段階」

2009年、中華人民共和国は建国60周年を迎えた。関西部会大会では、建国60周年にあたり2007年より、毛沢東時代・鄧小平時代の再審を経て、昨年が中華人民共和国60年を総括する「現代中国」一問われる正統性とその再構築課程」を共通論題テーマに取り上げ、議論を重ねてきた。

今年度の関西部会大会では、次の60年に向けて中華人民共和国の「現段階」を考える。たとえば、民主化はどこまで進んだか？中間層の出現は社会をどう変えたか？急速な経済発展は社会に何をもたらしたか？などなど、中国社会の著しい変化を検討する。現段階を改めて認識することは、中国社会がどこに向かおうとしているのかを知る重要な手掛かりとなるからである。

シンポジウムでは各領域から中堅・若手を中心に四人のパネリスト、さらにお一人の討論者をお迎えした。各パネリストからは中国社会の現段階が鋭く描きだされるであろう。また、討論者からは各報告を踏まえたさらに鋭い社会認識が示されるであろう。フロアを交えた激しい議論を通じて、次の60年への手がかりとなるファクトファインディングを期待する。

【訃報】

松本光太郎会員（東京経済大学コミュニケーション学部准教授）：2010年3月逝去。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

【日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌】

- ・林少陽『修辞』という思想』白澤社、2009.11
- ・石井知章『現代中国政治と労働社会』御茶の水書房、2010.4
- ・アジア経済研究所『アジア経済』2010年4月号まで
- ・京都大学地域研究統合情報センター『地域研究』第10巻第2号（2010年3月）
- ・『九州大学アジア総合政策センター紀要』第4号（2010年3月）

【事務報告】

2010年日本現代中国学会第1回常任理事会議事録

[日時] 2010年1月24日（日）14:00～17:00

[場所] 東京大学（本郷）東洋文化研究所405会議室（4階）

[出席者] 佐々木信彰、村田雄二郎、瀬戸宏、山本真、高見沢磨、辻美代、新谷秀明、菅原慶乃、土田哲夫、石塚迅

[欠席者] 加茂具樹、大西広

●報告事項（全国大会以後）

1. 事務局

・2009年全国大会総括

神戸大学からの総括文書に基づき意見を交換した。参加者は、初日約300名、二日目約150名であり、近年にない盛会であった（資料代納付者192名、うち会員150名）。

決算は241148円の黒字となった（国際シンポジウムは孫中山記念会との共同開催で別会計）。今後の全国大会で黒字が出た場合の処理について意見を交換した。

・地域研究学会協議会（11月）、東洋学アジア研究連絡協議会（12月）の研究費仕分け反対声明に賛同した。

・現代中国研究六拠点シンポジウムへの名簿貸し出しをおこなった（12月）。

2. 会計報告

会計事項のほか、2010年1月15日現在の会員数は702人であることが報告された。

3. 編集委員会

山本真編集委員長より『現代中国』第84号編集状況について報告があった

4. 広報委員会

加茂委員長欠席のため、石塚幹事よりホームページ、ニューズレター編集状況について報告があった。

5. 各地域部会

・関東部会：高見沢代表より、1月9日に『新中国の60年』合評会の研究会が開催されたこと、同日に関東理事会が開かれ5月15日に春季修士論文報告会開催を決定したことが報告された。

・関西部会：辻代表より、2009年11月28日に事務局会議が開かれ、6月5日に関西部会大会開催を決定したことが報告された。

・西日本部会：新谷代表より、4月から5月にかけて研究集会開催が予定され、また日中関係史学会との合同研究会も検討中であることが報告された（その後、5月29日に研究集会開催を決定）。

6. その他

特に報告はなかった。

●協議事項

1. 全国大会規定案・企画委員会規定案（組織検討委員会）

組織検討委員会よりの提案に基づき、両案を討議し、10月の全国理事会に提案することとした（全文は本議事録文末）。正式決定前であるが、本年度大会は試行としてこの案に基づき準備・運営していくことを確認した。

2. 2010年全国大会

土田哲夫担当理事からの文書提案に基づき意見を交換した。

a) 日時・・・10月16日（土）、17日（日）を決定した。

b) 大会の形態は、1日目：午前中理事会、午後共通論題、総会、夜懇親会、2日目：分科会、自由論題とすることとした。

c) 共通論題

今後企画委員会で検討するが、仮題として『（超）大国』中国の光と影』が提示され、意見を交換した。企画委員会は、高見沢委員長（関東部会代表）、土田委員（開催校）、山本委員（編集委員長）とし、学会理事長・副理事長・事務局長をオブザーバーとすることとした。

3. 太田賞と日本現代中国学会

太田賞（太田勝洪記念中国学術賞）と日本現代中国学会の関わりについて討議をおこな

った。現中学会関係は『現代中国』掲載論文から候補作を推薦するが、掲載論文が少ないため現中学会からの推薦は2年に1回とする案、アジア政経学会賞にならって当該年度の会員執筆論文とする案などが検討された。選考についても、現行のとおり編集委員会が選考するか、別に選考委員会を作るか、意見交換した。しかし、いずれについても決定にいたらず、太田賞の意義が現中学会内でもまだあまり認識されていないこともあり、各地域部会理事会で討議し、7月の第2回常任理事会で集約することとした。

4. 会計関係

- ・現中学会会計年度については会費請求の関係などもあり、変更しないこととした。
- ・現中学会ではこれまで同一地域部会内の移動には交通費を支給しなかったが、同一地域部会内でも特に多額の費用がかかる場合は交通費を支給することとした。各地域部会の活動は、各部会の判断に任せる。
- ・海外研修に出る予定の松田康博監査より辞任要求が出されていたが、会計監査は全国大会選出事項でもあるので引き続き留任していただき、電子メールなどで書類を研修先に送付し出来る範囲で監査していただき、詳細な書類監査、全国総会での口頭報告は引き続き山本恒人監査にお願いすることとした。

5. 広報関係

石塚幹事より今後の編集予定が説明され了承した。

6. 慶弔規定案

昨年の理事会付託事項である慶弔規定案について討議し、以下の骨子で作成することとした。

…範囲：現職の常任理事、理事長・副理事長・事務局長経験者、顧問、お花代：1万円、電報代5千円を基準とする。

7. 理事定数の検討

関東部会より理事定数見直しの提案があり意見交換したが、理事定数改定は規約改正が必要であり、本年度の理事選挙は現行通りおこなうこととし、引き続き討議することとした。

8. 役員関係

全国総会付託事項である選挙管理委員欠員について、各地域部会からの推薦を確認し決定した。

- ・関西・・・上田貴子（近畿大学）、王雪萍（関西学院大学）、高屋和子（立命館大学）
- ・西日本・・・間ふさ子（福岡大学）

9. 今後のスケジュール確認・決定

報告事項で確認した事項のほか、次の事項を確認・決定した。

理事選挙は6月20日投票締切とし、それを基本に投票用紙発送（1ヶ月前に会員到着）、開票（投票締切から2週間程度をメド）をおこなうこととした。

次期常任理事会を7月17日（土）東京で開催することとした。

10. その他

特に提案はなかった。

1. 日本現代中国学会全国大会規程（案）

第1条 日本現代中国学会（以下、学会とする）は原則として年1回全国大会を開催する。

第2条 全国大会は原則として会員が所属する教育・研究機関の一を会場（以下、会場となる教育・研究機関を開催校とする）とする。

第3条 開催校は開催予定年の前年の総会において決定する。

第4条 開催校には全国大会実行委員会（以下、実行委員会とする）を置く。

実行委員会は全国大会開催の準備、実行及び終了後の理事会に対する報告を行う。
第5条 全国大会の学術企画のために学会に全国大会企画委員会（以下、企画委員会とする）を置く。

企画委員会の組織については別に定める。

第6条 理事会は翌年度以降の開催校を当該年の候補（以下、開催候補校とする）とすることができる。

開催候補校には全国大会準備委員会を設けることができる。

第7条 全国大会開催のために寄付がある場合の会計については以下に定めるところによる。

（1）開催校（開催候補校を含む。以下、同じ）に寄付があった場合には、開催校が定めるところによって会計上の処理を行い、実行委員会または準備委員会は理事会に対してその処理につき報告する。

（2）実行委員会または準備委員会に寄付がある場合で、寄付者が学会に寄付を行う旨の意思を表示しない場合には、開催校に寄付があったものとみなす。実行委員会または準備委員会は理事会に対してその処理につき報告する。

（3）学会に寄付がある場合には学会の収入とした上で、大会準備金として支出する。

2. 全国大会企画委員会規程（案）

第1条 全国大会の学術企画のために学会に企画委員会を置く。

第2条 企画委員となるのは以下の各号に掲げる会員とする。

（1）開催校が所属する地方部会を代表する常任理事

（2）準備委員会が置かれている場合には開催候補校が所属する地方部会を代表する常任理事

（3）実行委員会委員長または実行委員会委員長が指名する実行委員

（4）準備委員会委員長または準備委員会委員長が指名する準備委員

（5）編集委員長

前項に掲げる会員のほか、理事長は若干名の会員を委員とすることができる。この場合の委員の任期は理事長の任期を超えない範囲で理事長が定める。

第1項第1号に掲げる委員を委員長、同項第3号に掲げる委員を副委員長とする。

理事長、副理事長、事務局担当理事は、企画委員会にオブザーバーとして出席することができる。

○若干の説明（組織検討委員長）

1. 前年度の総会において翌年度の開催校を決定することとしました。この関係で翌年度以降の開催候補校が決まっている場合（理事会審議によって決定されている場合）には準備委員会を設けることとしました。また、このようにすると委員任期を一律に定めることはできないので、役職についている人になる、という形にしました。理事長指名による委員を置く場合には、理事長の任期の範囲内で理事長が定めることとしました。

2. 理事長、副理事長、事務局担当理事はすべての活動に顔を出すことができることは明文の規定を要しないかもしれませんが、確認規定としておきました。

3. 寄付については寄付者が宛先及び用途を明示している場合にはそれに従えばよいのですが、あいまいな場合（問い合わせをしてもあいまいな場合）に備えて、明確でない場合には開催校に寄付があったものとしました。したがってその適切な処理は実行委員会や準備委員会の仕事になります。

【地域部会活動報告】

●関東部会

春季修士論文報告会を開催しました。

日時：2010年5月15日（土）

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階コラボレーションルーム 1

開会のことば：13:00～13:05 関東部会総務：高見澤磨（東京大学）

[優秀卒業論文]

- ・第一報告（13:05～13:50）司会：高見澤磨（東京大学）

報告者：山崎典子（東京大学大学院修士課程）「善隣協会の対イスラーム文化工作：蒙疆の工作者のイスラーム認識」

- ・第二報告（13:50～14:35）司会：趙宏偉（法政大学）

報告者：松村一志（東京大学大学院修士課程）「恢復期の中国社会学」

[修士論文]

- ・第三報告（14:45～15:30）司会：川島真（東京大学）

報告者：早丸一真（東京大学大学院博士課程）「1860年代初頭における清朝の外政機構と政策決定」

- ・第四報告（15:30～16:15）司会：田島俊雄（東京大学）

報告者：伊藤博（東京大学大学院博士課程）「中国における保険業の改革と開放」

- ・第五報告（16:15～17:00）司会：佐藤普美子（駒澤大学）

報告者：山崎寿江（中央大学大学院博士課程）「『時代三部曲』を中心とする王小波論」

【2010年度学会スケジュール（予告）】

●西日本部会 2009年春季研究集会

日本現代中国学会西日本部会研究集会を開催します。

日時：2010年5月29日（土） 13:00開始

場所：西南学院大学 学術研究所大会議室

13:00～13:15 開会式

13:20～14:00 研究発表 1

李振慶（西南学院大学・院）「新中国の農村実態調査—医療社会保険制度を中心に—」

司会：王忠毅（西南学院大学）

14:00～14:40 研究発表 2

横澤泰夫（日本現代中国学会会員）「趙紫陽の政治改革論—‘趙紫陽回想録’を中心に—」

司会：坂田完治（熊本学園大学非常勤）

14:40～15:20 研究発表 3

通山昭治（九州国際大学）「七八年憲法下の中国人民司法再考」

司会：横田耕一（九州大学名誉教授）

15:30～16:10 研究発表 4

矢羽田朋子（西南学院大学・院）「中国・長春市の主要近代建築について」

司会：松岡純子（長崎県立大学）

16:10～16:50 研究発表 5

張景珊（北九州市立大学・院）「曹禺作『日出』における女性像について」

司会：与小田隆一（久留米大学）

16:50～17:50 特別講演

鹿毛隆郎（九州日中関係学会会長）「変貌する中国のマスメディア」

司会：新谷秀明（西南学院大学）

17:50～18:00 総会・閉会式

18:30～20:00 懇親会 会場：未定

問い合わせ先：西日本部会代表 新谷秀明

hideaki@seinan-gu.ac.jpまで

●2010 年度全国学術大会

日本現代中国学会会員の皆様へ

このたび、2010 年度日本現代中国学会全国学術大会を、10 月 16 日（土）・17 日（日）の日程で、中央大学多摩キャンパス（東京都八王子市東中野 742-1）において開催することになりました。

つきましては、

(1) 自由論題の報告希望者ならびに

(2) 分科会の開催希望者を

下記により公募いたします。

1. 自由論題での報告（一人の報告時間は 30 分）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800 字以内）を下記実行委員会アドレスまでお送り下さい。

2. 分科会の開催（報告者 2～3 名、約 2 時間）をご希望の会員は、氏名・所属および分科会設定の趣意書（800 字以内）、報告予定者・所属、報告テーマ、予定討論者・所属をお送り下さい。

3. ご連絡はすべて電子メールでお願いいたします。その場合、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記して下さい。

4. 締切は、自由論題報告、分科会開催希望のいずれも 7 月 16 日（金）といたします。

5. なお、報告希望、分科会企画が多数にのぼる場合は内容及び会員歴などにもとづき、調整をさせていただくことがありますので、ご承知置き下さい。

6. 自由論題報告者は大会の十日前までに報告原稿またはレジュメを実行委員会まで提出してください。

7. 申し込み先は、以下のアドレスです。genchu2010chuo@gmail.com

会員のみなさまの研究成果の発表機会としてのみならず、学会未加入の大学院生等にとっても入会・研究発表の恰好の機会ですので、奮ってご参加下さいますよう、よろしくご検討下さい。

問い合わせ先：

日本現代中国学会全国大会 中央大学実行委員会

事務局代表 土田哲夫

FAX：042-674-3425

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL : 03-5307-1175 FAX : 03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp

郵便振替 : 東京 00190-6-155984

広報委員長 : 加茂具樹 (慶應義塾大学) ニュースレター編集 : 石塚迅 (山梨大学)

日本現代中国学会 HP : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jamcs/index.html>